

# 新生勝川に「かっちい」走る！

村井 亮治

## ■勝川駅周辺の街づくり

JR勝川駅周辺は、二十数年に亘り、土地区画整理事業や市街地再開発事業等による街づくりが進められてきた。現在は、当初計画された事業の殆どが完成しJR中央線の連続立体交差事業や駅前広場整備の一部を残すのみとなり、それらが完成すると、鉄道高架下に南北を結ぶ道路が新たに整備され、分断されている南北地域の一体化が図られることから、地域住民は早期完成に期待を寄せている。

## ■勝川地区でのエリアマネジメント

勝川地区では、行政によるハード主体の事業とは別に、地元商店主らによる「勝川駅周辺まちづくり協議会」が組織され、これまでに商店街のカラー舗装整備やスタンプ事業、販促イベントの開催や駅周辺のイルミネーション等、様々な街づくり、地域活性化策に取組んできた。

組織が設立されたのは平成元年と古く、「エリアマネジメント」の概念がまだない時代から勝川駅周辺地域の将来を見据え、積極的に街づくりを実践してきた。活動範囲は、組織独自の取組みとともに、駅前前の市街地再開発事業が進むと商店街への影響や来街者の利便性向上の視点で様々な意見を出し合い再開発組合と協議し、施設計画にも反映させてきた。

勝川地区では、行政主体によるハード整備がほぼ完成を迎えつつあり、街づくりの主体は地域住民やまちづくり協議会へと委ねられることから、新しい勝川の更なる飛躍が期待される。

## ■「コミュニティバス」「かっちい」走る！

勝川の街が大きく変わりつつも、商店主の間では中心商業地の空洞化への不安から、新たな活性化策の必要性が議論され、地域住民の商店街や周辺店舗への来店を促し、近隣の公共施設や病院等を利用する高齢者の安全で利便性の高い交通手段の確保を目的にした地域循環型コミュニティバス「かっちい」が提案され、昨年末に運行が開始された。

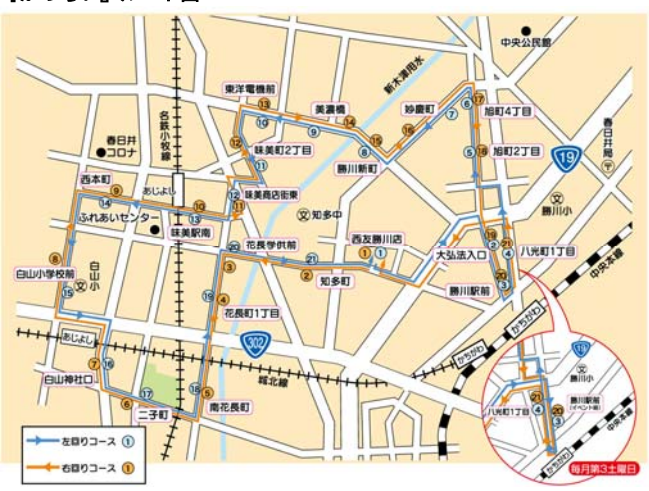
かっちいの事業主体は、春日井市商店街連合会で、商店街組織がバス事業に主体的に取り組む例は全国的にみても珍しく、地元の運輸事業者の協力を得て運行される。バス停は、JR

コミュニティバスは、利用者の確保やバスの維持費等の課題が多く、安定した運営が難しいとされるが、運行にこぎつけた力を運営力に注ぎ、利用者ニーズの反映と商店街や沿道店舗等との連携により、住民利用を促し、元氣なコミュニティバスとなることを期待したい。

### 『かっちい』運行概要

- ・路 線：東はJR勝川駅、西は名鉄味美駅周辺を結ぶ一周約9km
- ・運行日：毎日午前9時から午後6時台（年末年始は運休）  
左右回り合わせて14便/日
- ・バ ス：車椅子乗車装置付きマイクロバス（定員21名、車椅子使用時17名）
- ・料 金：中学生以上 200円/日  
小学生 100円/日  
乳幼児、障がい者手帳提示者は無料  
回数券・サポーター券も販売

『かっちい』ルート図



## 築地のまちづくり

名古屋の海の玄関口、築地地区。この地区は名古屋市の地区総合整備地区に指定され、名古屋市と名古屋港管理組合が共同で築地ポータルタウン計画を策定。都市景観整備地区にも指定されている。名古屋市中でも特色があり、行政がまちづくりに重点的に取組んでいる地区といえるが、さらに特筆できるのは住民主体のまちづくりが進められてきた点。

その成果は「中部の未来創造大賞特別賞」（二〇〇一年）、「愛知県人にやさしい街づくり賞」（二〇〇二年）、「名古屋市都市景観賞（まちづくり部門）」（二〇〇五年）の受賞に表れている。長らくそのまちづくりのお手伝いをしてきたが、その秘訣はパワーある住民の存在であるとみた。みなと祭りがそのパワーの源泉にもなっている。

こんなまちが次のまちづくりのステップに進もうとしている。住民自らが嫌われものの施設（ポルトピア）を誘致することで、環境整備協力費というお金が地域に入ってくる仕組みをつくりあげた。いかにこの資金を有効に活用し、魅力的なまちにしていけるか。まさにエリアマネジメントの実践である。



石田 富男

## 港まちづくり協議会

その要になるのが、港まちづくり協議会。三年前に発足し、二〇〇七年度から環境整備協力費を用いたまちづくり事業を実施している。

初年度の試行錯誤の中で組織づくりの重要性が明らかになり、二〇〇八年度から、まちづくりに意欲のある若者を事務局次長とし、地域住民が参加するワークショップの中で様々な事業の進め方について検討する形をつくりあげた。組織体制の立ち上げまでに時間がかかり、実質的に動きだしたのが九月。限られた時間の中でまだまだ試行錯誤が続いている状態であるが、「まちの縁側」事業として縁側トークがスタート。十二月からは街路樹イルミネーションが始まり、みんなの行灯イベントも行われる。地域住民の主体的なまちづくり活動を支援する「提案公募によるまちづくり事業」では「不登校・ひきこもりへの支援」など四団体からの提案が採択された。

港まちづくり協議会には二年間専門委員として関わらせてもらったが、専門委員という形では充分な動きをとることができず、歯がゆい思いをしてきた。やはり継続的にそのまちに関わるタウンマネージャーの存在が重要だ。築地のまちはその人材を確保した。あとはいかに住民が意欲を持ってまちに関わるかである。そのための新しい動き（町美委員会）の強化もある。楽しみになってきた。



http://minato55.jp/  
まだまだ物足りなさを感じるHPだが、「事務局次長・古橋敬一のプロログ」は見ごたえあり。